

第二十八回

こしがや能

秋の調べ



能「鉄輪」より（撮影：前島吉裕）

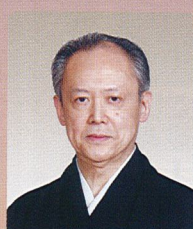
能 舞囃子 芦刈 渡邊 洋子
鉄 輪 関根 知孝
狂言 長 光 野村 太一郎
おはなし 山階 彌右衛門



渡邊 洋子



野村 太一郎



関根 知孝

料 金 一般 3,000円 学生 1,500円 (全席自由席・消費税込)

能楽堂友の会会員 10%割引

※未就学児童の入場はできません

お問い合わせ こしがや能楽堂 ☎048-964-8700

チケット発売場所 こしがや能楽堂 ☎048-964-8700
越谷コミュニティセンター(サンシティホール) ... ☎048-985-1112
越谷市教育委員会生涯学習課 ... ☎048-963-9307

- ◆東武スカイツリーライン 越谷駅東口 北側ロータリーより
花田循環又は市立図書館行きバスの「花田苑入口」下車徒歩3分
- ◆東武スカイツリーライン 新越谷駅/JR武蔵野線 南越谷駅 北口より
花田行き又は市立図書館行きバスの「花田苑入口」下車徒歩3分
- ◆チケットをお持ちの方は、公演当日、日本庭園「花田苑」に無料で入園できます。
- ◆駐車場には限りがありますので、ご来場の際はなるべく
公共の交通機関をご利用ください。
- ◆会場内は飲食ができません。
- ◆能楽堂の「能舞台」及び「観覧席の一部」は
屋外の施設となりますので、防寒及び暑さ対策にご留意ください。



無料 事前能楽講座

講師：観世流能楽師シテ方
関根 知孝 先生

10月3日(土) 午前10時～正午

能楽師による演出説明
・能の鑑賞方法
・能舞台の説明など

お申込みは
こしがや能楽堂まで

前売券
購入者限定
先着15名様

※新型コロナウイルス感染
拡大防止対策を講じて
公演を行います。

※座席配置および飲食物
提供自粛のため越谷市
茶道協会による添釜は
ございません。

令和二年十月十日(土)

開場 正午 開演 午後一時

※雨天決行 (荒天時は中止する)
(場合があります)

会場 越谷市日本文化伝承の館
こしがや能楽堂

主催：公益財団法人越谷市施設管理公社 共催：越谷市教育委員会 後援：越谷市

秋の調べ

令和二年
十月十日(土)
正午 開場 午後一時 開演

おはなし 山階 彌右衛門

番組

【仕舞】

大江山 古橋 美香

松虫 岡庭 祥大

地謡

武田 関根 祥九
上田 友志
田 公威
宗典

【狂言】

長光 シテ(すっぱ) 野村 太郎 アド (田舎者) 飯田 豪
小アド(目代) 高野 和憲

後見 中村 修一

【舞囃子】

芦刈 渡邊 洋子 大鼓 安福 光雄
小鼓 鳥山 直也 笛 八反田 智子

地謡

由田 久子 武田 友志
木月 宣行 岡庭 祥大

休憩二十分

【能】

前シテ(女) 関根 知孝
後シテ(女の生霊) 村瀬 慧

輪 ヲキ(安倍晴明) 矢野 昌平
ヲキツレ(男) 野村 裕基
間(社人)

大鼓 安福 光雄 太鼓 澤田 晃良
小鼓 鳥山 直也 笛 八反田 智子

後見 関根 祥九
山階 彌右衛門

地謡

依田 明子 武田 友志
木月 章行 上田 公威
武田 宗典 高梨 良一
木月 宣行 岡庭 祥大

附祝言

(終了予定時間 午後三時十分)

演目紹介

狂言「長光(ながみつ)」

男(アド)が故郷への土産を買いに市場へ出かける。賑やかな市場を見物して歩いていると、馴れ馴れしく鬚の男が近づいてくる。そればかりか手にした太刀を盗もうとする。怒った男(アド)が人を呼ぶと、鬚の男も同じく人を呼ぶ。駆け付けた目代(小アド)に男(アド)が事情を話せば、鬚の男も盗み聞きして自分のものだ主張する。太刀についての様々な質問に答えるうち、男(アド)はどうも声高に話すのを聞かれていらしいと気付く。そこで男(アド)は目代(小アド)にささやいて答え、聞こえないようにする。さすがに鬚の男は、窮して答えることができない。二人が鬚の男の着ているものを剥ぎ取ってみると、背中には盗品の数々がくくり付けてある。やはり盗人である。二人は逃げるすっぱ(シテ)を追いかける。

能「鉄輪(かなわ)」

京都の北の山中、貴船神社へと丑刻詣をする、一人の女(前シテ)。夫に捨てられた彼女は、鬼と変じて夫の命を奪うべく、毎夜祈願を重ねていた。ある夜、参詣した彼女は神託を得る。それは、全身を真っ赤に彩り、頭に鉄輪を載せてその各足に火を灯し、囃(いか)りの心を持ち続ければ鬼になれるとの託宣であった。

一方、新妻を迎えていた彼女の元夫(ヲキツレ)。最近夢見の悪い彼は、夢占いのため、陰陽師・安倍晴明(ヲキ)のもとを訪れる。晴明は、彼は今夜にも前妻の呪いによって絶命すると告げ、呪いの牙先を向け換えるべく人形(ひとがた)を作って祈禱をはじめ。するとそこへ、鬼女となった前妻の怨念(後シテ)が現れた。恨み言を述べつつ夫と新妻の人形を責め苛む鬼女。しかしそのとき、祭壇の幣帛上に護法の神々が出現し、却って鬼女を責め立てた。衰弱した鬼女は、再度の襲来を予告しつつ、姿を消すのであった。

「こしがや能楽堂」案内図

